

日本人類学会
平成 29 年度 評議員会・総会資料

日時：平成 29 年 11 月 4 日（土）12:45～14:45

場所：東京大学 理学部 2 号館大講堂

次第

1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 物故会員への黙祷

5. 報告

- 1) 平成 29 年度事業報告
- 2) 平成 29 年度収支決算報告
- 3) 平成 29 年度会計監査報告
- 4) 平成 29 年度 Anthropological Science 論文奨励賞授与式
- 5) 第 71 回大会 若手会員大会発表賞
- 6) 自然史学会連合の報告
- 7) 国際人類民族科学連合（IUAES）の報告
- 8) 日本学術会議からの報告
- 9) その他

6. 審議

- 1) 平成 30・31 年度会計監査役の承認
- 2) 名誉会員の推薦・承認
- 3) 平成 30 年度事業計画
- 4) 平成 30 年度予算案
- 5) その他

7. その他

8. 閉会の辞

5. 報告

1) 平成 29 年度事業報告

1) - 1. 庶務 (学会)

(1) 会員

a) 会員異動状況 (平成 28 年 10 月 1 日から平成 29 年 9 月 30 日)

入会：通常会員 9 名 (国内 8 名, 国外 1 名), 学生会員 11 名 (国内 11 名)

退会：通常会員 24 名 (国内 24 名, 内評議員 7 名), 学生会員 3 名 (国内 3 名)

資格変更：学生会員から通常会員 1 名 (国内 1 名), 通常会員から学生会員 1 名 (国内 1 名), 通常会員から通常会員評議員 2 名 (国内 2 名), 通常会員評議員から通常会員前納 1 名 (国内 1 名)

b) 会員数 (平成 29 年 9 月 30 日現在)

正会員：通常会員 525 名 (国内 514 名, 海外 11 名), 学生会員 91 名 (国内 91 名), 名誉会員 14 名, したがって正会員総数 630 名 (内評議員 144 名)

団体会員：53 団体 (国内 52 団体, 国外 1 団体)

賛助会員：2 団体 (国内 2 団体)

c) 物故会員

馬場信行氏 (平成 29 年 2 月ご逝去)

木村邦彦氏 (平成 29 年 7 月 21 日ご逝去)

北川賀一氏 (平成 29 年 9 月 5 日ご逝去)

遠藤萬里氏 (平成 29 年 10 月 24 日ご逝去)

(2) 新評議員

久保大輔氏 (平成 28 年 10 月 10 日付け), 中橋渉氏 (平成 29 年 3 月 23 日付け)

(3) 感謝状の送付

日本人類学会第 70 回大会大会長奈良貴史氏 (平成年 11 月 22 日付け), 前幹事長岡朋人氏、中山一大氏 (平成 28 年 10 月 10 日付け)

(4) 「日本人類学会 150 周年へ向けての将来構想検討委員会」委員の委嘱

委員長中務真人氏 (平成28年10月1日), 委員荻原直道氏, 海部陽介氏, 河村正二氏, 木村亮介氏, 河野礼子氏, 西村 剛氏 (平成28年10月8日付け)

(5) Anthropological Science (Japanese Series) 編集委員長 (125 巻 1 号～128 巻 2 号) の委嘱

近藤修氏 (平成 28 年 11 月 22 日付け)

(6) 人類学普及委員会委員長の委嘱

松村秋芳氏 (平成 28 年 11 月 22 日付け)

(7) 学会功労賞

当該規定2条の(1)該当者の下記3氏を受賞者として表彰した。
竹内京子氏, 大島直行氏, 湯浅勲氏 (平成29年4月1日付け)

(8) 諸会議

総会・評議委員会1回 (平成29年11月4日)

理事会5回 (平成28年11月6日, 平成29年3月11日, 6月24日, 10月14日, 11月3日)

(9) 学術集会

a) 第71回日本人類学会大会

日程: 平成29年11月3日~11月5日

会場: 東京大学本郷キャンパス

大会長: 植田信太郎 (東京大学)

b) 公開シンポジウム「日本人の生物学的アイデンティティを探る」

(東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻共催)

日程: 平成29年11月25日

会場: 東京大学理学部2号館

c) 第12回人類学関連学会協議会 (日本文化人類学会, 日本民俗学会, 日本生理人類学会, 日本霊長類学会, 日本人類学会) 合同シンポジウム「人、自然、テクノロジーの共生に向けて: 人類学の挑戦」

日程: 平成29年7月17日

会場: コラッセふくしま

人類学会からは諏訪元氏が講師として派遣された。

d) 分科会 (大会の開催に合わせて実施された分科会のシンポジウム等については, 実施日が次年度 [総会の翌日以降は次年度となる] に入っている場合, 当該年度 [総会開催日まで] の活動報告にまとめるものとする)

①キネシオロジー分科会

「F. K. Jouffroy 博士追悼の集い」 (オーガナイザー: 岡田守彦), 平成29年年11月5日
第71回日本人類学会大会

②骨考古学分科会

「白保竿根田原洞穴遺跡の調査と研究」 (オーガナイザー: 佐藤宏之・米田穰), 日本考古学協会第83回総会セッション 日本大学文学部, 平成29年5月28日

「三浦半島の縄文時代から古墳時代の古人骨」 (オーガナイザー: 杉山浩平・米田穰), 平成29年年11月5日 第71回日本人類学会大会

③進化人類学分科会

「第38回シンポジウム Biology and Evolution of Speech」 (オーガナイザー: 西村 剛)
平成29年2月23日 京都大学理学セミナーハウス (京都市)

「第39回シンポジウム ヒトにとってオトナになるとはどういうことか？」(オーガナイザー：鈴木 滋) 平成29年6月17日 キャンパスプラザ京都(京都市)

「第40回シンポジウム 後期中新世アフリカの霊長類進化に関する研究動向」(オーガナイザー：中務 真人)，平成29年11月5日 東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)

④遺伝分科会 現在活動休止中

⑤ヒト・霊長類比較解剖学分科会

「ヒト・霊長類比較解剖学分科会 -ヒラメ筋を考える-」(オーガナイザー：影山幾男，時田幸之輔) 平成29年11月4日 東京大学本郷キャンパス

ニュースレターの発行 10月31日発行予定

⑥ヘルス・サイエンス分科会

ニュースレターの発行に向けて準備中

(10) シンポジウム等の共催(共同主催を含む)，および協賛・後援の承諾

平成29年5月29日付け依頼，5月30日承諾回答：第5回新潟医療福祉大学・夏期骨学セミナー(平成29年8月25日～29日，新潟医療福祉大学)(後援)

(11) 2018・2019 年度日本人類学会会計監査役候補者選挙

会則および規定に従い，選挙管理委員会が平成29年7月14日付けで告示し，平成29年7月17日～7月30日を投票期間として，評議員を選挙権者および被選挙権者として，2名以内の無記名投票による選挙が行われた。投票者数は36名(投票率24.8%，有効投票数69票)で，近藤恵氏(12票)，長岡朋人氏(7票)，星野敬吾氏(6票)，荻原直道氏(5票)，佐宗亜衣子氏(4票)，足立和隆氏(3票)という結果になった。役員選出規定第4条第2項に基づき，近藤恵氏，長岡朋人氏が会計監査役候補当選者となった。

1) - 2. 庶務(理事会)

(1) 九州大学博物館の古人骨を含む所蔵資料が，移転に伴う収蔵施設計画が未定のため散逸が懸念されるとの情報を受け，九州大学総長宛にそうした事態を避けて頂くよう，人類学会長名で要望書を提出した(3月16日)。

1) - 3. 会計

(1) 会費請求を3回(うち督促2回)行った。
 (2) 各分科会に，分科会活動補助金の募集を行ったところ，進化人類学分科会，骨考古学分科会，ヒト・霊長類比較解剖学分科会から申請があり，各々へ2万円を支給した。
 (3) 2017年9月28日，会計監査役の足立和隆氏と星野敬吾氏により，会計監査が実施された。(末尾資料)

1) - 4. 出版

(1) 平成28年度機関誌(Anthropological Science [AS], Anthropological Science (Japanese Series) [ASJ])の出版状況。
 AS誌124巻3号 論文3編(原著3)，大会抄録

AS 誌 125 巻 1 号 論文 5 編 (原著 2, 短報 3)

AS 誌 125 巻 2 号 論文 6 編 (原著 6)

ASJ 誌 124 巻 2 号 論文 5 編 (原著 1, 資料研究報告 1, 資料 1, 雑報 1, 書評 1)

ASJ 誌 125 巻 1 号 論文 6 編 (原著 4, 短報 1, 雑報 1)

(2) 米 ISI 社, Journal Citation Report による Impact Factor

2016 年 = 0.971 (2015 年 = 0.703, 2014 年 = 0.605)

(3) J-Stage で公開中の AS 掲載論文の年間 PDF アクセス数推計 (2017 年 1 月～9 月×12/9)

AS 誌 = 34210 (前年比 43%減), ASJ 誌 = 15243 (前年比 35%減)

(4) 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化(B)」の平成 29 年度の助成を受けた(5 年間の 5 年目, 140 万円)

(5) AS 誌のさらなる発展について検討するため平成 29 年 11 月 4 日に編集委員会を実施

1) - 5. 渉外 [国内]

(1) 人類学会への寄贈和文雑誌の受け入れについて従来通り処理した。

(2) 平成 28 年 10 月 10 日、篠田謙一氏が日本人類学会会長に就任したため、「これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究に在り方に関するラウンドテーブル」の参加者を近藤修広報理事に変更した。結果、中務真人出版理事と石田肇渉外(国内)理事と合わせて、3名の参加である。

これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究に在り方に関するラウンドテーブル」中間まとめを受けて、倫理検討委員会(仮称)の構成、細則を決める、設置準備委員会を設けるため、日本人類学会から、中務真人出版理事および石田肇渉外(国内)理事の2名を推薦した。

平成 28 年 12 月 19 日(月)から平成 29 年 1 月 18 日(水)まで「これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブル」報告書に対するパブリックコメントを募集した。

平成 29 年 4 月 7 日、東京大学にて、これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブルを開催し、パブリックコメントに対し修正し、報告書を取りまとめた。出席者は、参加者は北海道アイヌ協会、日本人類学会、日本考古学協会、オブザーバーとして、常本照樹北大教授、文部科学省研究振興局学術機関課である。日本人類学会からは中務真人出版理事及び近藤修広報理事が出席した。4 月 21 日の第 31 回政策推進作業部会で加藤博文北大教授が報告し、5 月 23 日の第 9 回アイヌ政策推進会議で、「これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブル 報告書」として配布され、ホームページで公開されている。

平成 29 年 7 月 21 日、北海道大学東京オフィスにて、これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブルを開催し、今後の進め方について話し合った。日本人類学会からは近藤修広報理事及び石田肇渉外(国内)理事が出席した。

平成 29 年 10 月 16 日、東京大学にて、これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブルを開催し、今後の進め方について話し合った。日本人類学会からは近藤修広報理事及び中務真人出版理事が出席した。

- (3) 平成 29 年 1 月 20 日、北海道アイヌ協会創立 70 周年記念祝賀会（於：京王プラザホテル 札幌）に、篠田謙一会長の代理として、石田肇渉外（国内）理事が出席した。
- (4) 平成 29 年 4 月 10 日、日本学術振興会賞候補者を推薦した。
- (5) 平成 29 年 5 月 25 日、篠田謙一会長と石田肇渉外（国内）理事が厚生労働省社会・援護局を訪れ、戦没者遺骨収集事業について話合いを持った。その対応として、日本人類学会から遺骨鑑定専門員（常勤）を 2 名推薦し、11 月 1 日発令した。
- (6) 平成 29 年 8 月 4 日、第 34 回北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ(北海道アイヌ協会主催、北海道大学協賛)が執り行われた。日本人類学会からは、篠田謙一会長と石田肇渉外（国内）理事らが参列した。翌日の 8 月 5 日、国際先住民族の日記念事業「アイヌ民族の文化遺産と研究倫理～先住民族から見る遺骨返還と人権～」(北海道アイヌ協会主催)において、篠田謙一会長が「先住民族の人権と自然人類学研究」との題で講演を行った。
- (7) 平成 29 年 10 月 4 日、第 12 回札幌医科大学におけるイチャルパ(札幌大イチャルパ文化体験交流の集い)が開催された(北海道アイヌ協会主催、札幌医科大学・日本人類学会協賛)。日本人類学会からは、篠田謙一会長が出席し挨拶を行った。その他、百々幸雄名誉会員、石田肇渉外（国内）理事らが出席した。また、イチャルパ後の本会主催の講演会が行われ、北海道大学の山内太郎氏が講演を行った。

1) - 6. 渉外 [国外]

- (1) 日本人類学会への寄贈欧文誌について、従来どおり処理した。

1) - 7. 企画

- (1) 平成29年度日本人類学会賞の推薦はなかった。
- (2) 平成29年度Anthropological Science論文奨励賞は、選考委員会（國松豊委員長）の審査と理事会の議を経て、大野憲五氏に贈られることが決定した。
- (3) 平成29年度シンポジウム・学術講演会等に対する科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公开发表(B)」は不採択だった。

1) - 8. 広報

- (1) 学会ホームページの更新をおこなった。
 - a) 会則、役員・編集委員・会員情報の更新。
 - b) ASJ 投稿規定, AS 論文奨励賞, 若手学会発表賞, 学会大会, 英語 HP, その他掲示板の更新など。
- (2) 会員メーリングリストの配信（11 回）。

1) - 9. 人類学普及

- (1) 文部科学省へパブリックコメント「次期学習指導要領等に向けた審議のまとめへの意見」を提出（2016 年 10 月）。
- (2) サイエンスアゴラに出展（2016 年 11 月 5～6 日） 東京・お台場, 日本未来館 「私たちの祖先はなにを食べてきたか」。
- (3) 文部科学省からの化石年代に関する問い合わせへの回答（2016 年 12 月 8 日）。

- (4) 自然史学会連合体験教室に出展(2017年1月22日) 群馬県富岡市, 群馬県自然史博物館「くらべてみよう, チンパンジーとヒト」。
- (5) 江戸川区子ども未来館 連続講演 「人類学入門 ～ヒトはサルから進化したのか～」, および夏休み講座「くらべてみよう, サルとヒト」(2017年4月～9月)開催。
 第1回(4月23日)「ヒトの顔とサルの顔」戸坂明日香
 第2回(5月20日)「脳の大きさをしらべてみよう」市石博
 第3回(6月25日)「頭蓋骨にかくされたヒトのひみつ」米田穰
 第4回(7月23日)「サルの足とヒトの足」松村秋芳
 第5回(7月28日)「くらべてみよう, サルとヒト」広谷浩子
 第6回(8月27日)「サルのいでんし, ヒトのいでんし: ごせんぞさまのはなし」太田博樹
 第7回(9月20日)「ヒトの進化と化石のはなし」近藤修
- (6) 自然史学会連合体験教室(2017年8月19日)への出展調整および申請 テーマ:「骨から知る生前の姿」。
- (7) サイエンスアゴラ(2017年11月24～26日東京・お台場, 日本未来館)への出展を応募。

2) 平成 29 年度収支決算報告

末尾資料

3) 平成 29 年度会計監査報告

末尾資料

4) 平成 29 年度 Anthropological Science 論文奨励賞授与式

受賞者: 大野憲五

対象論文: Ohno, K., Kawakubo, Y., Kuraoka, A. (2016) Re-evaluation of temporal changes in alveolar protrusion in Japan according to two newly introduced craniometric angles. *Anthropological Science* 124(1): 63-72

5) 第71回大会 若手会員大会発表賞

6) 自然史学会連合 平成 29 年度活動報告

河野礼子(人類学会代表)

- ・一般対象の2017年度講演会を, 2017年8月19日(土)に大阪市立自然史博物館にて開催した。また第二回講演会を11月4日(土)にアクアマリンふくしまにて開催する。
- ・『理科好きな子に育つ ふしぎのお話 365』(誠文堂新光社)のNTTドコモ運営のスゴ得コンテンツにおけるオンライン公開開始を開始した。
- ・各種意見書についてのとりまとめを行った(九州大学博物館、学芸員問題など)。九州大学博物館に関する意見書については九州大学宛に提出済みである。

7) 国際人類民族科学連合(IUAES)の報告

河村正二（渉外理事）

- ・ The 18th IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) World Congress が 2018 年 7 月 16-20 日にブラジルの Florianópolis の the Federal University of Santa Catarina (UFSC) で開催される。パネルの申し込みは 2017 年 10 月 31 日で終了した。

8) 日本学術会議からの報告

馬場悠男（日本学術会議第 23 期連携会員）

第23期（2014年10月～2017年9月）日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会所属
 自然人類学分科会は、委員長：馬場悠男日本学術会議連携会員、副委員長：山極壽一日本学
 術会議会員、幹事：河内まき子日本学術会議連携会員、委員：稲村哲也、印東道子、斎藤成
 也、諏訪 元、竹沢泰子、徳永勝士、長谷川壽一、村山美穂、山本眞鳥（以上、日本学術会
 議連携会員）の12名で構成された。

自然人類学分科会の委員会は、2017年1月16日に第4回、2017年9月1日に第5回が開催され
 た。以下の諸課題が議論されたが、実施が不十分であり、全ての課題は達成を目指し第24期
 自然人類学分科会への申し送り事項とした。

- ・ 自然人類学の専門家を養成するために何をしたら良いか、また一般社会に人類学を普及す
 るためにどんな支援ができるかを区別して考え、戦略的具体策を図る。
- ・ 総合的人类学の発展のために、人類学関連学会協議会に属する学会など関連分野の研究者
 とのネットワークを広げる。
- ・ 特に日本人類学会および日本霊長類学会との連携を強化する。そのために、両学会理事会
 に理事の一部が自然人類学分科会委員会にオブザーバーとして出席するよう要請する。
- ・ 委員やオブザーバーが出席しやすくするために、分科会委員会を日本学術会議の外で開催
 し、開始時刻を18時以降にすることを検討する。
- ・ シンポジウムやサイエンスカフェを積極的に開催する。

なお、昨年、諏訪連携会員が日本学術会議に提出した大型研究計画「日本列島人の成立に
 いたる人類進化史の解明」は、「第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マス
 タープラン2017）」（2017年2月8日）における163件の大型研究計画の一つとして採択され
 た。ただし、重点大型計画策定に向けたヒアリング（65件）の対象にはされず、したがって
 重点大型研究（28件）にも採択されなかった。

9) その他

6. 審議

1) 平成 30・31 年度会計監査役の承認

次の 2 名の候補者について承認をお願いしたい。当該選挙当選者の近藤恵氏，長岡朋人氏。

2) 名誉会員の推薦

会長から金澤英作氏を推薦したい。

3) 平成27年度事業計画

(1) 諸会議

総会1回(平成30年10月), 評議員会1回(平成30年10月), 理事会5回

(2) 学術集会

a) 第72回日本人類学会大会

大会長: 斎藤成也(国立遺伝学研究所)

会場: 三島市民文化会館および国立遺伝学研究所

日程: 平成30年10月19~22日

b) 各分科会

c) 第13回人類学関連学会協議会(日本文化人類学会, 日本民俗学会, 日本生理人類学会, 日本霊長類学会, 日本人類学会)合同シンポジウム

(3) 機関誌の冊子体, 電子ジャーナル版をそれぞれ年間5冊分発行(AS: 125巻3号~126巻2号, ASJ: 125巻2号~126巻1号)

(4) 受理論文の早期公開(AS, ASJ)

(5) 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化(B)」の申請

(6) 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「研究成果公開発表(B)」の申請

4) 平成30年度予算案

末尾資料

5) その他

7. その他

出版理事より学会誌の現状について説明。

日本人類学会 平成29年度 会計決算報告書

(平成 28 年 9 月 1 日 ~ 平成 29 年 8 月 31 日)

【本体会計】

(単位：円)

収入の部	予算	決算	増減	備考
会費	5,017,000	5,336,000	319,000	会費内訳
評議員費	127,000	141,000	14,000	通常会員(H29年度会費):3,638,000円(524名)86.8%
雑誌売上金	600,000	481,076	-118,924	通常会員(H28年度以前会費):686,000円
著者負担金	500,000	732,120	232,120	学生会員(H29年度会費):175,000円(89名)39.3%
科研費(国際情報発信強化費)	1,400,000	1,400,000	0	学生会員(H28年度以前会費):75,000円
科研費(研究成果公開促進費)	1,300,000	1,300,000	0	団体会員会費:612,000円(53名)96.2%
広告料	240,000	240,000	0	賛助会員会費:150,000円(3件3口)100.0%
雑収入	100,000	97,909	-2,091	評議員費:141,000円(130名)108.5%
小計	9,284,000	9,728,105	444,105	※()内は8月31日現在の会員数。 納入率は、会費収入÷(会員数×年会費)で算出
前期繰越金	5,246,606	5,246,606	0	広告料:ゼネラルサイエンス(12回分)
収入合計	14,530,606	14,974,711	444,105	雑収入:利息収入、学術著作権協会複写使用料、 医学中央雑誌刊行会許諾抄録利用料、 メテオ文献権利許諾利用料

支出の部	予算	決算	増減	備考
出版費	4,500,000	4,561,434	61,434	出版費(英:124-2, 124-3, 125-1, 和:124-2, 125-1)
配本費	400,000	493,192	93,192	印刷費:3,894,220円
HP運営費	100,000	43,848	-56,152	別刷印刷費用:77,274円
理事会費	500,000	232,738	-267,262	電子ジャーナル経費:236,520円
大会補助費	500,000	500,000	0	電子投稿システム:280,800円
関連学会費	100,000	91,186	-8,814	編集費:72,620円
庶務費	20,000	0	-20,000	関連学会費
選挙関係費	180,000	179,641	-359	IUAES年会費(2016年度分):71,186円
事務費	1,750,000	1,560,361	-189,639	自然史学会連合分担金(2016年度分):20,000円
学会賞等経費	300,000	338,285	38,285	事務費
科研費(研究成果公開促進費)	1,300,000	1,300,000	0	事務委託料:1,306,800円
分科会活動補助金	120,000	60,000	-60,000	経費実費:253,561円
人類学普及費	200,000	200,000	0	分科会活動補助
派遣旅費	200,000	0	-200,000	進化人類学、骨考古学、ヒト・霊長類比較解剖学
学会積立金	0	0	0	予備費
予備費	100,000	5,000	-95,000	合同シンポジウム演者昼食代
小計	10,270,000	9,565,685	-704,315	
次年度繰越金	4,260,606	5,409,026	1,148,420	
支出合計	14,530,606	14,974,711	444,105	

監査の結果、平成29年度決算報告書に誤りのないことを認めます。

2017年 9月 28日

会計監査役 足立和隆

会計監査役 星野敬吾



日本人類学会 平成29年度 会計決算報告書

(平成 28 年 9 月 1 日 ~ 平成 29 年 8 月 31 日)

【学会積立金】

(単位：円)

収入の部	予 算	決 算	増 減	備 考
本体会計より繰入	0	0	0	
小 計	0	0	0	
前期繰越金	10,000,000	10,000,000	0	
収入合計	10,000,000	10,000,000	0	

支出の部	予 算	決 算	増 減	備 考
次年度繰越金	10,000,000	10,000,000	0	
支 出 合 計	10,000,000	10,000,000	0	

日本人類学会

貸借対照表

(平成 29 年 8 月 31 日 現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	19,644,027	【流動負債】	4,235,001
事務局現金	79,153	未払金	20,000
手許現金として	79,153	分科会活動補助(ヒト・霊長類比較解剖学)	20,000
現金	34,265	前受金	1,400,001
五十嵐庶務理事	27,819	科研費(国際情報発信強化費)	1,400,001
河野会計理事	6,446	科研費(研究成果公開促進費)	0
普通預金	18,341,698	前受会費	2,815,000
みずほ銀行(大塚)	2,004,057	平成30年度以降会費	2,815,000
みずほ銀行(マリアナ医大前)	0	預り金	0
みずほ銀行(本郷)	13,743,110	過入金預り金	0
ゆうちょ銀行振替口座	1,194,526		
科研費口座(国際情報発信強化費)	1,400,005	【正味財産】	15,409,026
科研費口座(研究成果公開促進費)	0	次期繰越金	5,409,026
前払費用	835,911	前期繰越金	5,246,606
出版費(英文誌125-2)	704,160	当期収支差額	162,420
配本費(英文誌125-2)	111,751		
関連学会費(自然史学会連合2017年度)	20,000		
未収入金	353,000	学会積立金	10,000,000
カード決済会費 未入金	353,000		
資産の部 合計	19,644,027	負債及び正味財産の部合計	19,644,027

日本人類学会 平成30年度 予算

(平成 29 年 9 月 1 日 ~ 平成 30 年 8 月 31 日)

(単位：円)

収入の部	H29年度決算	H30年度予算	増 減	備 考
会 費	5,336,000	4,926,000	-410,000	会費内訳(会員数は2017年9月30日現在) 通常会員(525名×90%) 3,780,000円 学生会員(91名×90%) 410,000円 団体会員(53団体×100%) 636,000円 賛助会員(2件2口×100%) 100,000円 評議員費(名誉会員以外 130名 × 95%) 124,000円 広告料 未収分
評議員費	141,000	124,000	-17,000	
雑誌売上金	481,076	500,000	18,924	
著者負担金	732,120	600,000	-132,120	
科研費(国際情報発信強化費)	1,400,000	1,400,000	0	
科研費(研究成果公開促進費)	1,300,000	0	-1,300,000	
広告料	240,000	40,000	-200,000	
雑収入	97,909	100,000	2,091	
小 計	9,728,105	7,690,000	-2,038,105	
前期繰越金	5,246,606	5,409,026	162,420	
収入合計	14,974,711	13,099,026	-1,875,685	

支出の部	H29年度決算	H30年度予算	増 減	備 考
出版費	4,561,434	4,500,000	-61,434	出版費 英文誌 3号(125-2, 125-3, 126-1) 発行経費 210万円(印刷費込) 和文誌 2号(125-2, 126-1) 発行経費 140万円(印刷費・電子化料込) 実費立替分(別刷・カラー頁印刷費) 20万円 電子投稿システム利用料 35万円 編集費 45万円 理事会費 理事会出席者の旅費・交通費を含む 選挙関係費 電子投票システム利用料を含む 事務費 事務委託料および経費実費
配本費	493,192	510,000	16,808	
HP運営費	43,848	50,000	6,152	
理事会費	232,738	500,000	267,262	
大会補助費	500,000	500,000	0	
関連学会費	91,186	100,000	8,814	
庶務費	0	20,000	20,000	
選挙関係費	179,641	550,000	370,359	
事務費	1,560,361	1,600,000	39,639	
学会賞等経費	338,285	300,000	-38,285	
科研費(研究成果公開促進費)	1,300,000	0	-1,300,000	
分科会活動補助金	60,000	120,000	60,000	
人類学普及費	200,000	200,000	0	
派遣旅費	0	200,000	200,000	
学会積立金	0	0	0	
予備費	5,000	100,000	95,000	
小 計	9,565,685	9,250,000	-315,685	
次年度繰越金	5,409,026	3,849,026	-1,560,000	
支出合計	14,974,711	13,099,026	-1,875,685	